

# 2019年度活動報告

2020年3月6日

JAPIO ライティング分科会

# ライティング分科会の活動報告

## 【活動目的】

ビジネス分野をはじめ、広く一般に公共性の高い産業日本語の書き方を普遍財として普及していきます。

## 活動指針

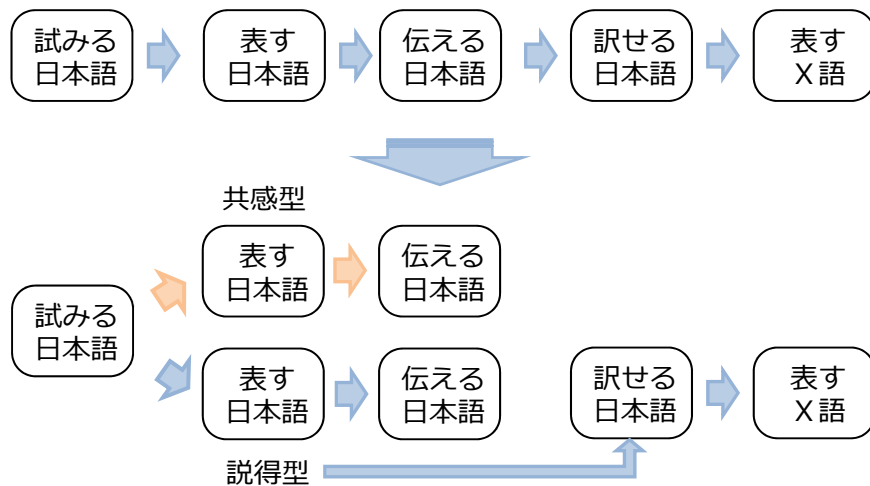
- ・ 思考の道具（知覚、情動、知性の顕在化）として日本語を分析する（道具論）
- ・ ライティングプロセスモデル（横井）を基礎として思考と書き方の連繋を見出す
- ・ 日本語を使いこなすためのマニュアルを作成する
- ・ 対象分野はビジネス文書（筋書きに沿って主張を伝える文書）とする

## 2019年度 【5回の会議を実施】

- 1 ■ 各委員による具体事例（日本語文章）の分析（原因・理由-結果の使い方の妥当性）
- 2 ■ 各委員による具体事例（日本語文章）の分析（原因・理由-結果の使い方の妥当性）  
 （☛ 原因・理由が結果に結びつかない、惟作法が違いそうだとの議論を行った）
- 3 ■ ものの実体表現の違いの検討（主張表現の背後の思惟作法の違いを含む）
- 4 ■ ものの実在性と動きの表現の再検討（主語と主題、動詞と述語の違いの検討）
- 5 ■ ものの実在性と動きの表現の再検討（筋書きの作り方の違いの再検討）

## 検討の結果

- ・ ライティングプロセスモデルの修正



### ものの言語表現上の実在性

モノのそれらしさ（価値指向？主観？）

唯心的見方、一元的捉え方、総合判断

〔モノである〕

共感型文章

モノのかたち（事実指向？客観？）

唯物的見方、二元的捉え方、分析判断

〔モノがある〕

説得型文章

- ・ 過去の議論も含め「モノのそれらしさ、モノのかたち」の観点から再整理しました。

# ライティング分科会の活動報告

## 【活動目的と成果】

ビジネス分野をはじめ、広く一般に公共性の高い産業日本語の書き方を普遍財として普及していきます。本年度、主張（価値と事実／立場と態度）を含む文章の段（パラグラフ）構成と、主張を効果的に伝えるための二つの論じ方を明らかにしました。

- 文書には構造がある
- 文章には「語る姿勢」がある（納得してもらおう or 説得する）

## 文書と文章、段（パラグラフ）

文書	【役割】 確約（コミット）するコト		主張
	【形式】 儀礼（プロトコール）と文書構造		発信者と受信者
	文章	【語る姿勢】 合理的な心構え（主張の戦略）	二つの戦略
		【形式】 筋書き（アウトライン）	二つの論じ方
		段（パラグラフ）	【ことば遣い】 正確な語彙や表現
【形式】 字下げと話題文，支持文	表現の型		

## 文書を書く時に点検

- 主張（価値と事実）を意識する
- 発信者と受信者を確認する
- 文書儀礼を確認する
- 読み手との共有知識を確認する



- ✓ 価値（立場） or 事実（態度）？
- ✓ 両者の関係性を理解しているか
- ✓ 適切に記述できているか
- ✓ 読み手の知識を具体的に意識できているか

### 〔主張〕

#### 〔価値の主張〕

価値を主張し立場を確約する（結論）

読み手に納得してもらおう立場（共感）

根拠から結論に至る関係群がある  
 関係の存在の蓋然性が高いこと（因果であること）を表す  
 （関係の実在度合が結論を支持する）

〔関係である〕

共感とは関係の実在度合を担保するもの

関係の実在 ▣ 「～である」でモノを表す

〔モノである〕

共感型文章：皆の見解を統一する

一般的・恒常的叙述に偏向する（モノが関係的・機能的に在るから）

#### 〔事実の主張〕

事実を主張し態度を確約する（結論）

読み手を説得する態度（意志）

根拠から結論に至る関係連鎖がある  
 根拠の存在の蓋然性が高いこと（因果があること）を表す  
 （根拠の実在度合が結論を支持する）

〔根拠がある〕

意志とは根拠の実在度合を担保するもの

根拠の実在 ▣ 「～がある」でモノを表す

〔モノがある〕

説得型文章：相手の見解を変える

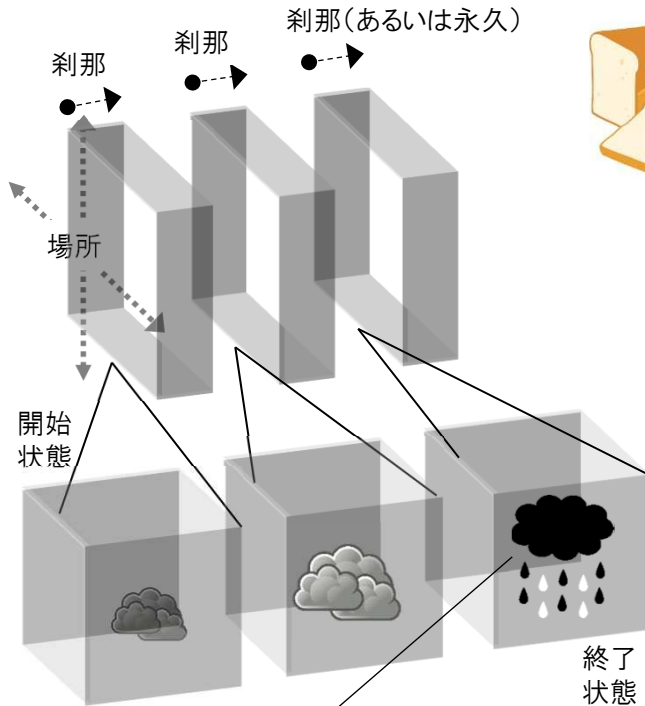
個別的・特定の叙述に偏向する（モノが知覚的・具体的に在るから）

【論じ方とモノの見方（思惟特徴）】

語る姿勢（主張の戦略）に結び付いている二つの論じ方は、時間経過の創造の仕方（不変性と不動性）の違いから生まれます。モノの見方（～である / ～がある）と動きの表し方（状態変化 / 位置変化）が違ふことを意識しましょう。

〔モノである〕（食パン一枚モデル）

動き：モノは状態を変える～状態変化  
（離散時間，相対空間）



食パン一枚モデル

不変性があると見做す  
〔終了状態が既知〕

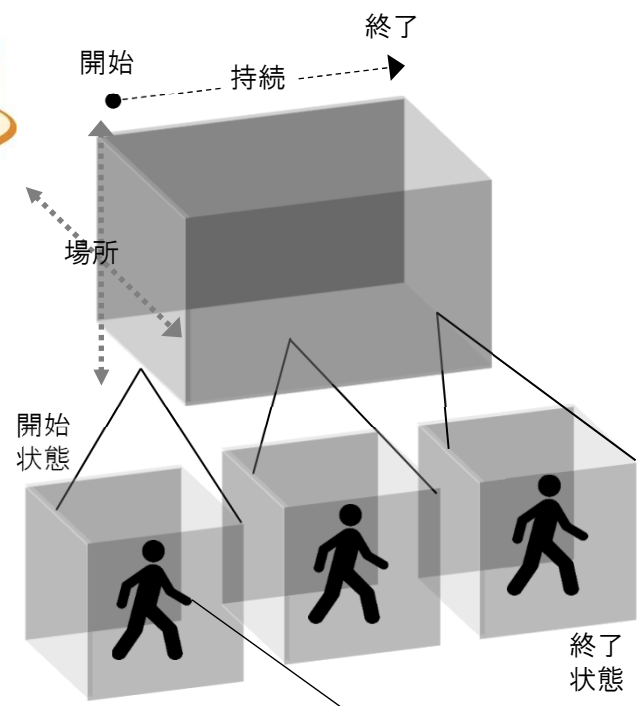
不変状態の結果が既知

結果が在る。ある原因・理由（開始状態）を前提とすると結果である

関係の实在度合が結論を支持  
思惟方向は、これより前（確率論的）

〔モノがある〕（食パン一斤モデル）

動き：モノは位置を変える～位置変化  
（連続時間，絶対空間）



食パン一斤モデル

不動性があると見做す  
〔開始状態が既知〕

不動状態の原因・理由が既知

原因・理由が在る。この原因・理由ならば結果（終了状態）が起こる

根拠の实在度合が結論を支持  
思惟方向は、これより後（決定論的）

仮説と演繹思惟

推論・思惟

直接的な演繹思惟



〔尤も確からしい〕



〔尤も確からしい〕

把握（結果）  
仮説（原因・理由）  
結論（関係）

$$D$$

$$p(H_i|D)$$

$$\therefore H_i \rightarrow D$$

〔関係の实在度合が結論を支持する〕

〔根拠の实在度合が結論を支持する〕

前提（関係）  
把握（原因・理由）  
結論（結果）

$$H \rightarrow D$$

$$H_i$$

$$\therefore D$$

# ライティング分科会の活動報告

## 【語る姿勢と叙述の特徴】

語る姿勢（主張の戦略）に結び付いている二つの論じ方は、思惟特徴である総合的な判断の主張なのか、分析的な判断の主張なのかの違いに分かれます。関係の实在度合を述べるのか根拠の实在度を述べるのかを意識しましょう。

### 価値・立場主張〔納得型文・パラグラフ〕

関係の实在度合が結論を支持する

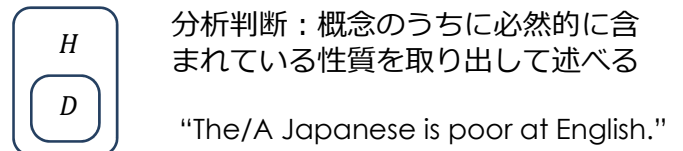
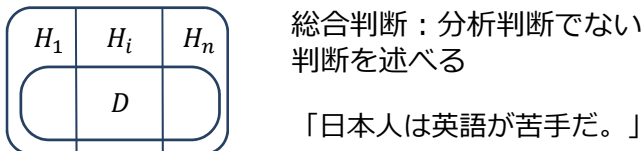
$D$  「英語が苦手だ」  
 $p(H_i|D)$  「英語が苦手である条件で日本人だ」  
 $\therefore H_i \rightarrow D$  「日本人が英語が苦手である」□  
 (関係の实在度合)

### 事実・態度主張〔説得型文・パラグラフ〕

根拠の实在度合が結論を支持する

$H \rightarrow D$  "Japanese people (are/be) poor at English"  
 $H_i$  "the/a Japanese (is)" □  
 $\therefore D$  "(be) poor at English"  
 (根拠の实在度合)

## 文



## パラグラフ

### 論じ語り方（起-承-転-結，起-承-結 (introduction/body/conclusion)）で整理する

- 主張内容を導入する話題（文）
- 読み手が共有していると思われる知識を根拠として結論に至る表現を，複数文列挙する

- 主張内容を要約する話題（文）
- 書き手が根拠としている知識から結論に至る表現を，複数文列挙する

起 導入文（価値や立場を示す）

起 導入文（事実や態度を示す）

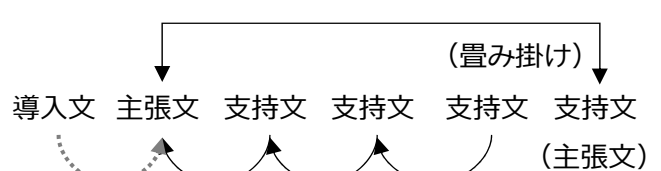
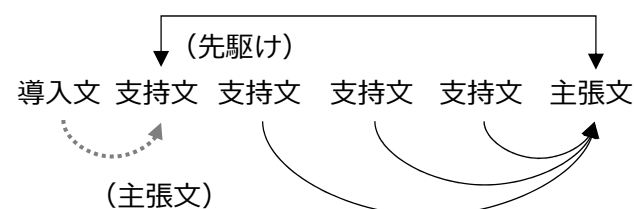
承 支持文（主張の先駆け）  
 支持文\*（関係に説得力を持たせる）

承 主張文（根拠の实在性を述べる文）  
 支持文\*（根拠に説得力を持たせる）

転 支持文（視点を変えて問い直す）

結 支持文（主張の畳みかけ）

結 主張文（関係の価値を主張する文）



## 書き方規則（メタ規則）

- 公の（共有された）論考か，個人の論考（思い）かを区別する（情動注意）
- 一般的な類例から具体的な類例の順序で列挙する（確率論的，離散時間）
- 高確度の結果に結び付く根拠と原因を考える（個別への配慮しすぎに注意する）

- 誰もが知覚できるのか，個人の知覚（経験）かを区別する（独善注意）
- 出来事は時間順序や一般から具体への順序で列挙する（決定論的，連続時間）
- 根拠と原因は一因でなく多面的視点が必要（根拠の単純化し過ぎに注意する）

【伝わる書き方で文章を書こう！】  
文章は「語る姿勢」と「形式（起承転結か起承結）」を決定し、「健全な態度」に沿って書くことが必要です。「語る姿勢」と「健全な態度」には、文章化する際に、二つの効果的な表現技法があります（共感技法と意志技法）。

価値・立場主張	【語る姿勢】合理的な心構え...（共感，意志）	事実・態度主張
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 共感による納得は、共通項を探すことであり（調和），多視点で客観的な事実や主観的な信念を担保づけること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 意志による説得は、他の選択肢を排除することであり（対立），単視点で客観的な事実や主観的な信念を裏付けること</li> </ul>

価値・立場主張	【健全な態度】根拠の考え方...（共感，意志）	事実・態度主張
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 根拠（共有知識）を明確にして表現する</li> <li>■ 公の見解と私的意見を明確に区別する</li> <li>■ 安易な判断と断定は思考を止めるので避ける</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 根拠（一般事実）を明確にして表現する</li> <li>■ 追認された出来事と経験を明確に区別する</li> <li>■ 安易な判断と断定は思考を止めるので避ける</li> </ul>

### 共感と納得（の例）

日本人は、外国語が苦手である。その苦手を克服するために努力しなければならないことを様々な観点から議論してきた。議論の中には、日本語が世界の言語の中でも際立って特殊な言語であり、本来、日本人には、外国語は向かないという悲観論を説くものもあった。確かに、その悲観論も、欧米の諸言語の有様を調べてみると、頷けないことはない。しかし、本稿は、すべての国々の人々にとって、自国語以外の言語を習得する困難さには、さしたる違いはないという観点に立つ。その観点から、苦手とする外国語を習得するために日本人が心得なければならない要点は、外国語を使う環境に身を置くこと、日本語の能力を鍛えること、自分独自の考えや主張を持つことである。

### 意思と説得（の例）

英語に関する意識調査は、日本人が、未成年・成人ともに6割超が英語に対して苦手意識を持っていること示している。その苦手意識を克服するポイントが、様々な観点から議論されている。その議論のひとつに悲観論がある。例えば、日本語と中国のイー族の彝（い）語が音節文字を持つ言語である。さらに日本語だけが表意文字と表音文字を使う。したがって日本語は際立って特殊な言語であるから日本人に外国語習得は難しい。一方に、楽観論がある。その議論は、第二外国語学習の観点から、自国語以外の言語を習得する困難さに共通点があることを主張する。本稿は、楽観論に賛成する立場である。この立場から日本人が心得るべき学習の要点を提案する。その要点は、(1) 外国語を使う環境に身を置くこと、(2) 自らの日本語の能力を鍛えること、(3) 自分独自の考えや主張を持つことである。



納得技法	※ 段（パラグラフ）作文の技法		説得技法
提示の仕方	結論に関する価値・立場を述べる／結論に至る事実・態度を述べる		
支持の仕方	共感を通じて立場を納得してもらおう（結論から根拠を押し量る）	意志をもって態度を示し説得する（根拠から結論を導く）	
根拠への注意	個人的な信念を根拠にし過ぎない	個別的な出来事を根拠にし過ぎない	
書き手の態度	根拠（共有知識と一般事実）を積み上げて正しさを主張する		
	信念（理性的な情感・情意）で価値を主張する		
表現	「彼は家に困っている。」等・「何々は（どんな）だ」，「何々が～に（どう）だ」，「何々が（どう）なる」	「革新技术が生活を変える。」等・「何（々）が（何（々）をどう動かす」，「誰（々）が（何（々）をどう為す」	